



2021年3月期 第3四半期 決算概況

2021年2月8日

株式会社J-オイルミルズ

問い合わせ先：

コーポレートコミュニケーション部 Tel.03-5148-7101



Agenda

- 1 2020年度3Q 決算概況
- 2 2020年度 通期見通し
- 3 2020年度 重点施策
- 4 財務戦略
- 5 参考資料

2020年度3Q 連結業績概要

単位：億円

	2018年度 3Q	2019年度 3Q	2020年度 3Q	対前年 増減率	2020年度 通期予想	進捗率
売上高	1,441.3	1,374.1	1,220.0	▲11.2%	1,600.0	76.2%
営業利益	54.8	67.9	51.4	▲24.3%	70.0	73.4%
経常利益	58.2	70.5	54.8	▲22.3%	74.0	74.0%
当期純利益(※)	45.4	58.5	39.1	▲33.1%	54.0	72.4%

※親会社株主に帰属する当期純利益

● 決算のポイント

売上高	+	新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭用製品の需要増加
	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、主に外食向けを含む業務用製品の需要減退
	-	ミール価格の低下、搾油量減少によるミール販売数量減少
営業利益	+	経費の抑制などコスト改善を進めることで、収益の確保に努める
	-	新型コロナウイルスの影響による業務用製品を中心とした需要減退
当期純利益	+	特別利益:投資有価証券売却益 +1.1億円、
	+	特別利益:東北物流拠点で発生した火災による受取賠償金を計上 +2.2億円
	-	特別損失:東北物流拠点で発生した火災による災害損失計上 ▲1.3億円

2020年度3Q セグメント業績概要

単位：億円

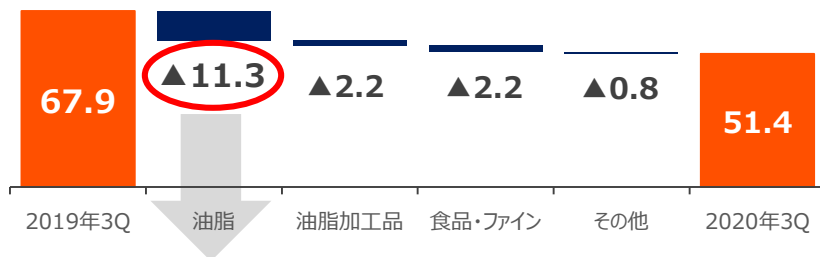
売上高	2018年度 3Q	2019年度 3Q	2020年度 3Q	対前年 増減率	2020年度 通期予想	進捗率
油脂	1,223.1	1,162.3	1,026.1	▲11.7%	1,338.0	76.7%
油脂加工品	100.8	97.9	91.6	▲6.5%	121.0	75.7%
食品・ファイン	106.6	103.5	94.8	▲8.4%	131.0	72.4%
その他	10.8	10.4	7.6	▲27.0%	10.0	75.8%
連結	1,441.3	1,374.1	1,220.0	▲11.2%	1,600.0	76.2%

営業利益	2018年度 3Q	2019年度 3Q	2020年度 3Q	対前年 増減率	2020年度 通期予想	進捗率
油脂	47.1	59.2	48.0	▲19.1%	60.0	79.9%
油脂加工品	2.5	▲1.0	▲3.2	-	1.0	-
食品・ファイン	4.3	7.7	5.4	▲29.2%	8.3	65.5%
その他	0.9	1.9	1.2	▲39.4%	0.7	167.6%
連結	54.8	67.9	51.4	▲24.3%	70.0	73.4%

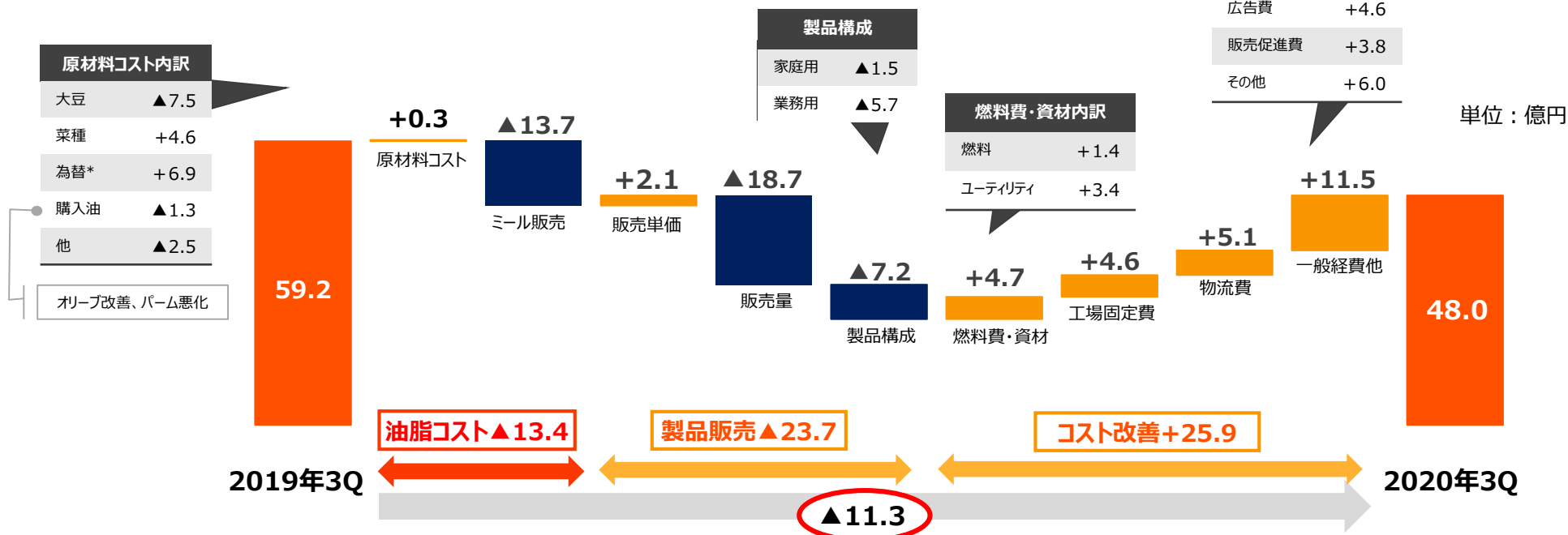
2020年度3Q 営業利益増減分析

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



【油脂事業 営業利益増減分析】



*為替・・・19年3Q:109円/1ドル、20年3Q・・・107円/1ドル

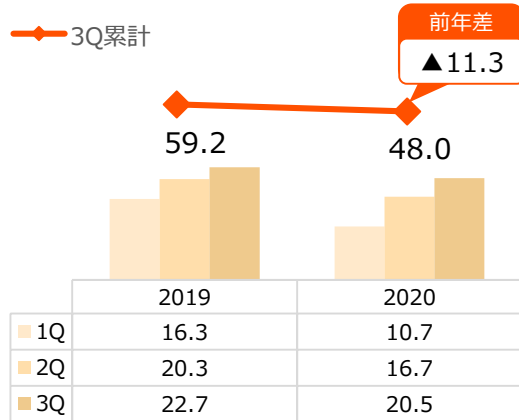
セグメント別業績：油脂事業



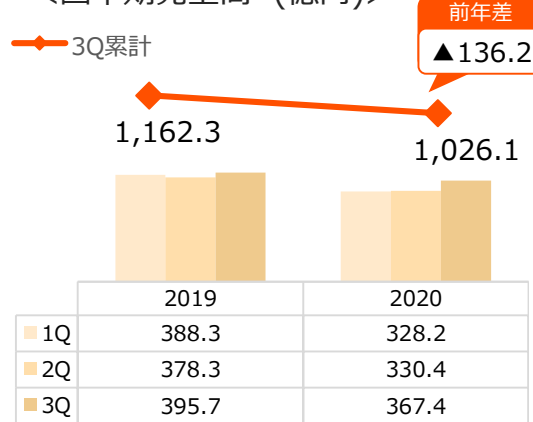
主要な事業内容

- 家庭用油脂・業務用油脂・ミール

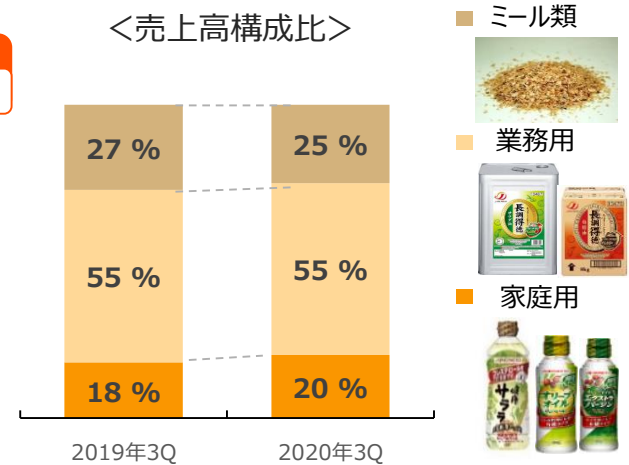
<四半期営業利益 (億円)>



<四半期売上高 (億円)>



<売上高構成比>



- 内食需要の高まりを受けて家庭用油脂の販売量は前年比を超える水準で推移
- 外食企業を中心とした油脂需要の減少により業務用油脂の販売量の減少
- ミール価格の低下と搾油量減少による販売量減少
- 製造コストと一般管理費減少によるコスト負担減少

営業利益 増減分析	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
家庭用油脂	▲ 11.3	▲ 2.0	+ 0.9	+ 26.2
業務用油脂		+ 1.5	▲ 24.2	
ミール類		▲ 4.4	▲ 9.3	
合計	▲ 11.3	▲ 4.9	▲ 32.6	+ 26.2

(単位:億円)

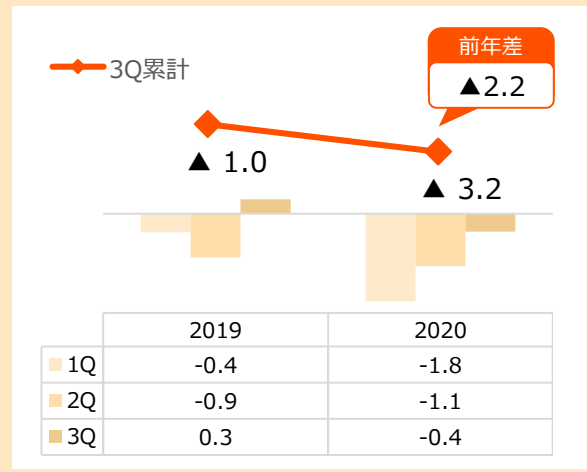
セグメント別業績：油脂加工品事業



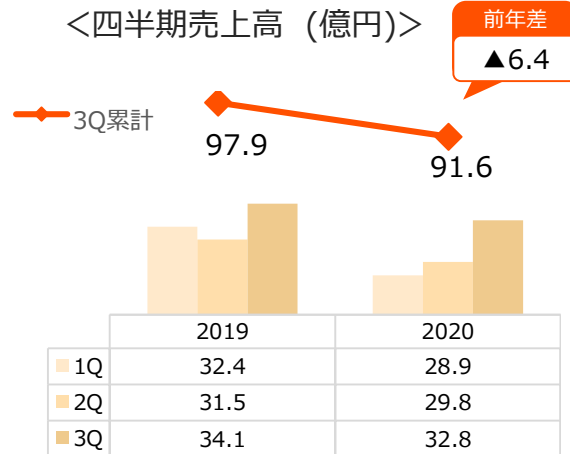
主要な事業内容

- マーガリン・粉末油脂

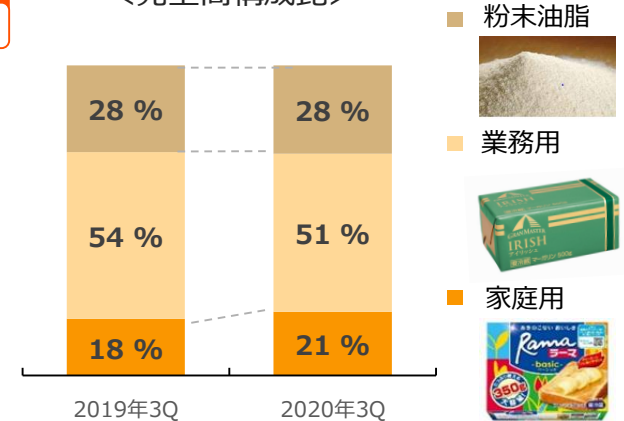
<四半期営業利益 (億円)>



<四半期売上高 (億円)>



<売上高構成比>



- 家庭用マーガリン:内食需要の高まりを受けて家庭用の販売量は前年比を超える水準で推移
- 業務用マーガリン:インバウンド、土産菓子向け需要減少により業務用の販売減少
バター配合品の原料の切り替えおよび海外における新商品の発売の遅れ
原料であるパーム油の価格上昇とその他の原料調達コスト改善の遅れ
- 粉末油脂:工場稼働日数の減少により、販売数量減少

営業利益 増減分析	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
家庭用マーガリン	▲ 2.2	▲ 0.3	+ 0.1	+ 0.6
業務用マーガリン		▲ 0.1	▲ 2.2	
粉末油脂		+ 0.0	▲ 0.4	
(単位:億円)	合計	▲ 0.4	▲ 2.4	

Premium Fats Sdn Bhdによる第三者割当増資を引受けた結果、前連結会計年度は、暫定的な会計処理を行っていましたが当第3四半期連結会計期間に確定しております、連結財務諸表に与える影響はありません

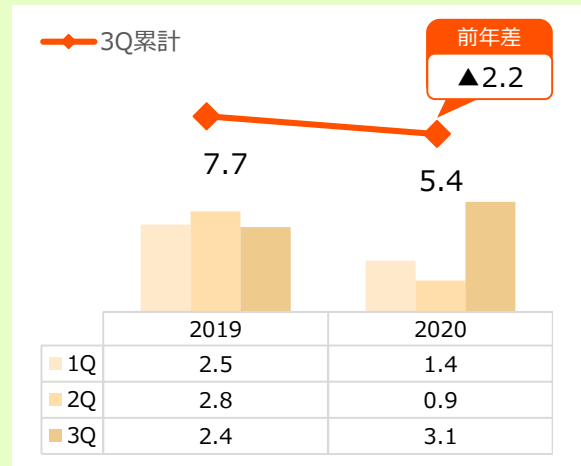
セグメント別業績：食品・ファイン事業



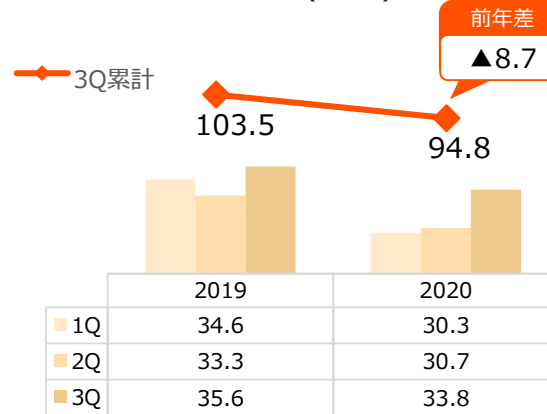
主要な事業内容

- スターチ・ファイン・ケミカル

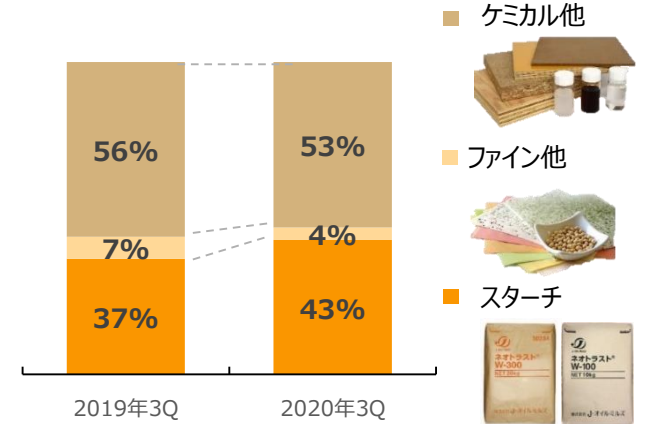
<四半期営業利益（億円）>



<四半期売上高（億円）>



<売上高構成比>



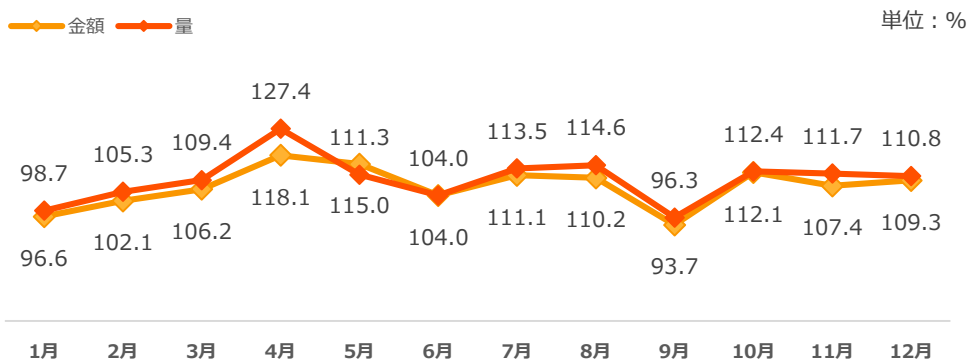
- スターチ: 不採算品の改善と拡販に継続して取り組むことで販売量、売上高増加
高付加価値製品である「ネオトラスト」は品質・食感改良材として中食・外食への採用増加
- ファイン: ビタミンK2の販売好調、新型コロナウイルス感染症の影響により主要販売先が北米である
SOYシートの売上高減少、2Q以降、外食店の営業再開、テイクアウト需要喚起により回復基調
- ケミカル: 一部コストが良化した、2019年10月の消費税増税駆け込み需要反動と、
コロナ禍の影響による住宅需要急減、需要家の値下げ圧力の増加により、売上高及び数量が減少

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
営業利益 増減分析	スターチ	+ 0.7	+ 0.3	
	ファイン	▲ 0.5	▲ 0.3	
	ケミカル他	▲ 4.0	▲ 1.0	
(単位:億円)	合計	▲ 2.2	▲ 3.8	▲ 1.0
				+ 2.5

新型コロナウイルスの決算への影響

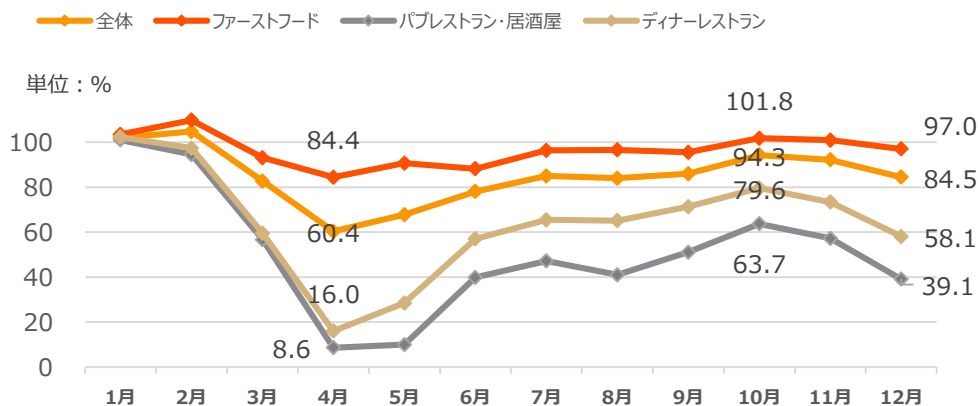
<市場環境>

【家庭用油脂 前年比較（平均購入規模×100）】



※参照データ：株式会社インテージ「SCI」

【業務用油脂 外食産業市場動向調査 売上高 前年比較】



※参照データ：一般社団法人 日本フードサービス協会

2020年3Q当社の市場予想前提と実績（前年比）

		2020年下期 前回予想	2020年10~12月 実績
油脂事業	家庭用	0～+5%	+10%弱
	業務用	外食向け	▲10%～▲15%
		加工用	▲5%～▲10%
油脂加工品事業	家庭用	0%	0%
	業務用	▲5%～▲10%	▲5%
食品・ファイン事業	スターチ	▲2%～▲5%	▲1%～▲3%
	ケミカル	住宅着工戸数の底入れ	▲7%
	SOYシート	緩やかに回復	前年並みに回復

- 在宅率上昇の影響により家庭内食の機会が増え、家庭用油脂は上期に引き続き好調に推移
- 業務用油脂は、GoToイートやGoToトラベル事業の効果により、回復傾向であった
- 家庭用マーガリン市場は落ち着きを取り戻しつつあり、前年並みで推移
- 業務用マーガリンは市場は緩やかに回復傾向にあり、GoToトラベル事業の効果により観光土産菓子関係も改善した
- 主な販売先が北米であるSOYシートはテイクアウト需要の高まりを受けて前年並みの水準まで回復



Agenda

- 1 2020年度3Q 決算概況
- 2 2020年度 通期見通し
- 3 2020年度 重点施策
- 4 財務戦略
- 5 参考資料

2020年度損益予想

- 3Qまでの進捗と原料相場の上昇を踏まえ、通期計画を下方修正し2020年度は減収・減益を見込む
- 修正幅は、期初予想に対し、売上高は据え置き、営業利益▲10億円、経常利益▲10億円、当期純利益▲6億円

【連結業績予想】

単位:億円

	2019年度 通期実績	2020年度 修正予想	前年差	2020年度 期初予想	修正額
売上高	1,782.0	1,600.0	▲ 182.0	1,600.0	0.0
営業利益	66.6	60.0	▲ 6.6	70.0	▲ 10.0
経常利益	73.0	64.0	▲ 9.0	74.0	▲ 10.0
当期純利益(※)	52.0	48.0	▲ 4.0	54.0	▲ 6.0

※親会社株主に帰属する当期純利益

【主な修正理由】

- 原料動向

2020年度相場動向※1

	1Q		2Q		3Q		4Q	
	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	想定 (前年)	対前年差
大豆 ¢/Bu※2	891.2 (905.0)	▲13.8	851.2 (866.2)	▲15.0	931.7 (873.0)	+58.7	1,137.2 (914.3)	+222.9
菜種 ¢/MT※3	463.3 (472.2)	▲8.9	465.1 (448.1)	+17.0	494.1 (447.9)	+46.2	568.3 (458.8)	+109.5
ミルバリー-%	66.6 (67.7)	▲1.1	68.2 (68.8)	▲0.6	65.6 (67.6)	▲2.0	67.8 (65.8)	+2.0

※1:搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています ※2:シカゴ相場 ※3:ウィニペグ相場

- 市場環境予想

市場環境		2020年4Q以降予想	
油脂事業	家庭用	+5~10%	
	業務用	外食向け	▲10%~▲20%
		加工用	▲5%~▲10%
油脂加工品事業	家庭用	前年並み	
	業務用	▲5~▲10%	
食品・ファイン事業	スターチ	▲1%~▲3%	
	ケミカル	住宅着工戸数の底入れ	
	SOYシート	前年並みに回復	

2020年度損益予想

- セグメント別の修正額は、期初予想の営業利益に対し、
油脂事業▲5億円、油脂加工品事業▲4.7億円、食品・ファイン事業▲0.8億円、その他事業+0.5億円

セグメント別		19年度実績	20年度 修正予想	前年差	20年度 期首予想	修正額
油脂事業	売上高	1,504.9	1,340.0	▲164.9	1,338.0	2.0
	営業利益	60.6	55.0	▲5.6	60.0	▲5.0
油脂加工品事業	売上高	127.6	120.0	▲7.6	121.0	▲1.0
	営業利益	▲4.0	▲3.7	0.3	1.0	▲4.7
食品・ファイン事業	売上高	136.6	130.0	▲6.6	131.0	▲1.0
	営業利益	7.7	7.5	▲0.2	8.3	▲0.8
その他事業	売上高	12.9	10.0	▲2.9	10.0	0.0
	営業利益	2.3	1.2	▲1.1	0.7	0.5
連結合計	売上高	1,782.0	1,600.0	▲182.0	1,600.0	0.0
	営業利益	66.6	60.0	▲6.6	70.0	▲10.0

単位:億円

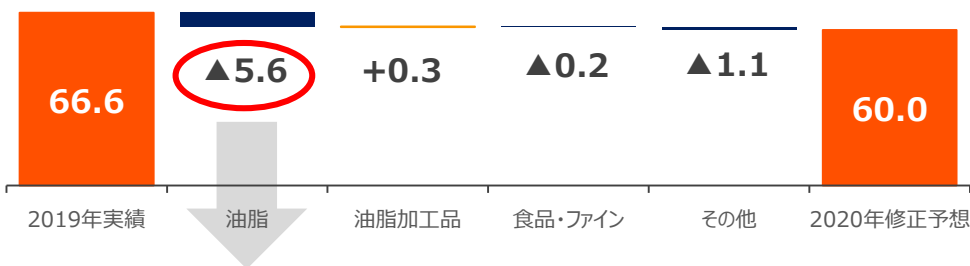
【主な修正理由】

油脂事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は当初予想と比較して堅調に推移、原料相場の高騰を受け収益の悪化を見込む
油脂加工品事業	<ul style="list-style-type: none"> ● バター配合品の原料の切り替えおよび海外における新商品の発売の遅れ ● パーム油を中心とした主原料相場の上昇による、原料調達コストの増加
食品・ファイン事業	<ul style="list-style-type: none"> ● ケミカルとSOYシートの上期の進捗の遅れ

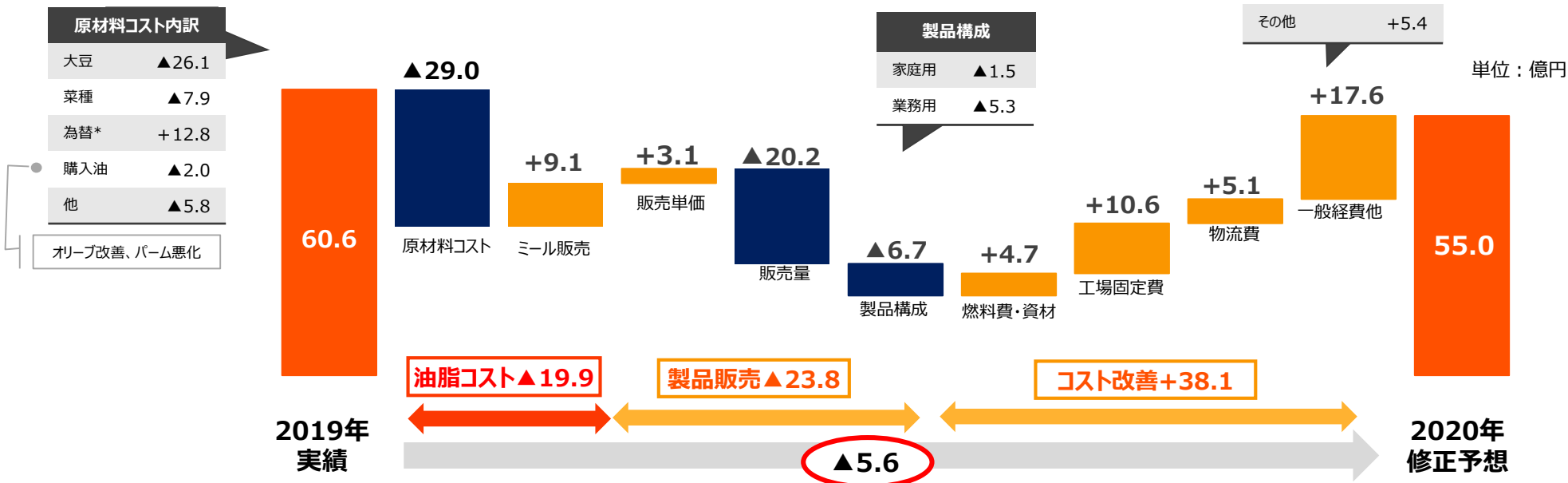
2020年度修正通期予想 営業利益増減分析（前年対比）

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



【油脂事業 営業利益増減分析】



*為替…19年実績:109円/1ドル、20年修正予想…107円/1ドル



Agenda

- 1 2020年度3Q 決算概況
- 2 2020年度 通期見通し
- 3 2020年度 重点施策
- 4 財務戦略
- 5 参考資料

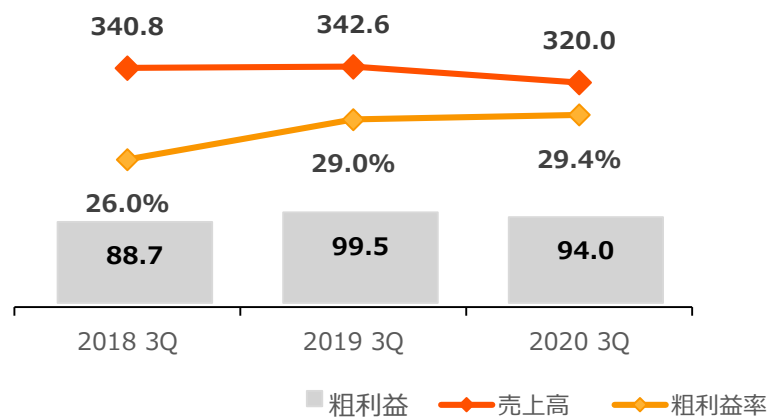
成長戦略：高付加価値品拡大

- 新型コロナウイルス感染症の影響により売上高、粗利益共に前年を下回るが、粗利益率、連結構成比は増加

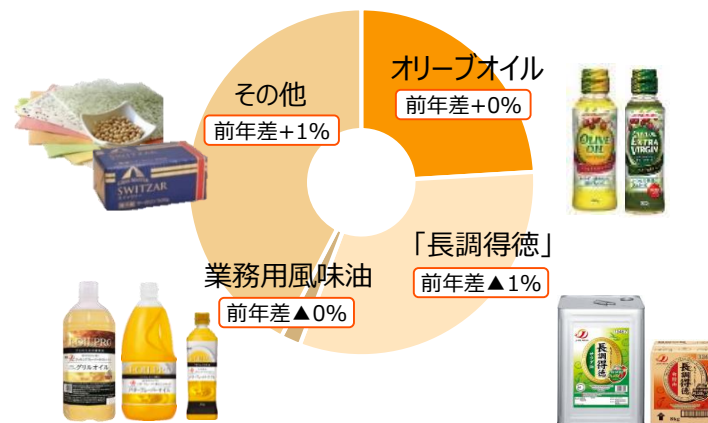
【高付加価値品推移】

単位：億円

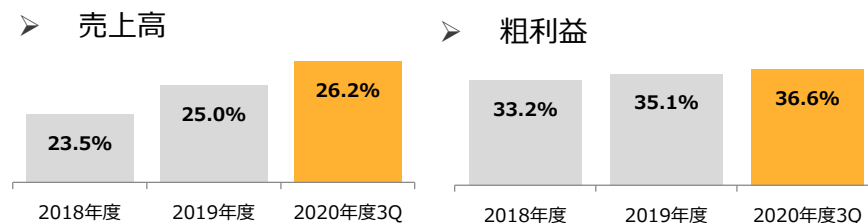
		2019年度 3Q	2020年度 3Q	対前年 増減率
高付加 価値品	売上高	342.6	320.0	▲6.6%
	粗利益	99.5	94.0	▲5.5%
	粗利益率	29.0%	29.4%	-



【売上高構成比】



【連結全体構成比】




- オリーブオイルは一部製品において4月～5月に休売した影響で販売数量減少、安価な輸入オリーブ製品の拡大により販売単価の低下
- 業務用製品は、新型コロナウイルス感染症の影響により販売数量減少
- スターチ高付加価値製品である「ネオトラスト」は品質・食感改良材として中食・外食への採用増加

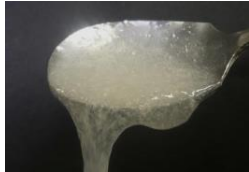

成長戦略②：ソリューション事業強化～強みの掛け算～

- コロナ禍でのテイクアウト需要の高まりを受け、当社独自のスターチ商品「ネオトラスト」は品質・食感改良材として中食・外食への採用増加したことにより前年同期比で20%売上増加

当社独自スターチ「ネオトラスト」

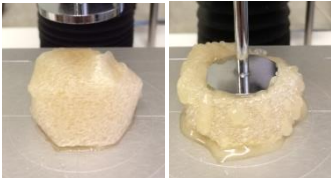
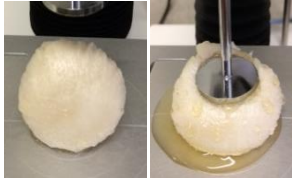


➢ 吸水しても粘らない・水も油も保持

通常のでん粉	ネオトラスト
	

4倍量の水を吸水した際の性状

➢ スポンジ機能をもつ

通常のでん粉	ネオトラスト
	

圧迫した時のみ離水

ジューシーさの実現、コク味の向上、野菜の煮崩れ感付与、食感の改良、経時劣化抑制など食品の機能性を向上

● これまでに培った基盤技術

技術	油脂			スターチ
	液体	固体	粉体	
	➢ フライ油 ➢ 調味油	➢ マーガリン ➢ ショートニング	➢ 粉末油脂	

● おいしさを解析する技術・再現する技術

コク	風味	食感
----	----	----

油脂とスターチそれぞれが持つ機能を生かして多くのメニューでお役立ち

人気メニューへの貢献～採用事例～

油脂 × スターチ

➢ ハンバーグ・から揚げ・パン・おにぎり等多くのメニューに採用



構造改革:SKU削減の取り組み

- 構造改革の基盤固めに貢献し、次期中計に向けた筋肉質化を徹底的に進める

<削減目標>

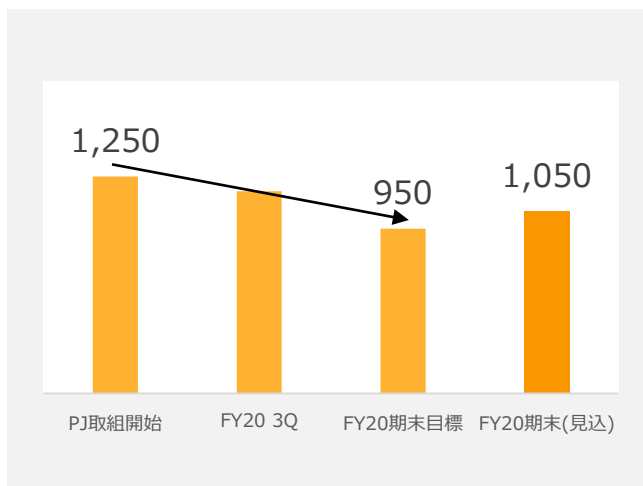
油脂20%、油脂加工30%、スターチ40%



3事業合計

300 品目削減

<SKU数>



<期待する効果>

- | | | |
|------|---|-----------|
| 定量効果 | ◆ | 労務費削減 |
| | ◆ | 物流費減 |
| | ◆ | 製品・資材ロス減 |
| | ◆ | 切替油減 |
| | ◆ | エネルギー使用量減 |
| 定性効果 | ◆ | 切替作業工数減 |
| | ◆ | 管理工数減 |
| | ◆ | 倉庫保管効率アップ |
| | ◆ | 生産効率アップ |

<売上高・営業利益におけるインパクト>

- | | |
|------|--|
| 売上高 | 売上減少として
10億円強、終売によるもの |
| 営業利益 | NET利益 3～5億円改善
今期末～来期にかけて利益改善 |

プロジェクト開始から削減品目の特定とお客様へのご説明を丁寧に進めているが、3Q期末時点では目標に対して約3割の削減と進捗に遅れが出ている。2020年度期末見込は現時点で200品目の削減を見込んでおり、未達成部分については、来期以降も引き続き削減に向けて取り組む。



Agenda

- 1 2020年度3Q 決算概況
- 2 2020年度 通期見通し
- 3 2020年度 重点施策
- 4 財務戦略
- 5 参考資料

BSとキャッシュフローの状況

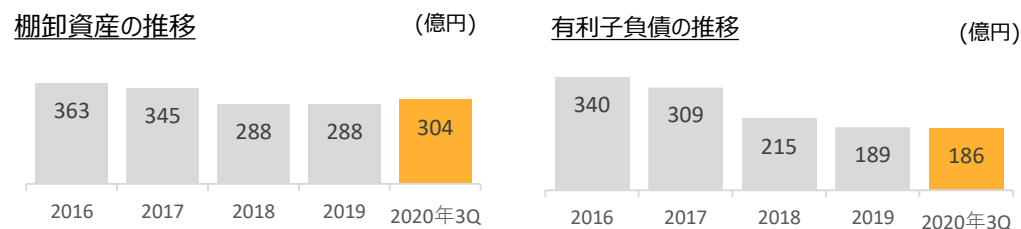
連結貸借対照表

	19年期末	20年12末	増減
流動資産	739	734	-6
現預金	84	30	-54
売上債権	340	377	37
棚卸資産	288	304	16
その他	28	23	-5
固定資産/繰延資産	736	727	-9
有形・無形資産	582	560	-21
投資その他	155	167	12
資産計	1,475	1,461	-15

	19年期末	20年12末	増減
負債	579	535	-44
仕入債務	124	123	-1
有利子負債	189	186	-3
引当金	52	46	-6
その他	213	180	-33
純資産	897	926	29
株主資本	859	881	22
包括利益他	35	41	7
非支配株主持分	3	3	0
負債・純資産計	1,475	1,461	-15

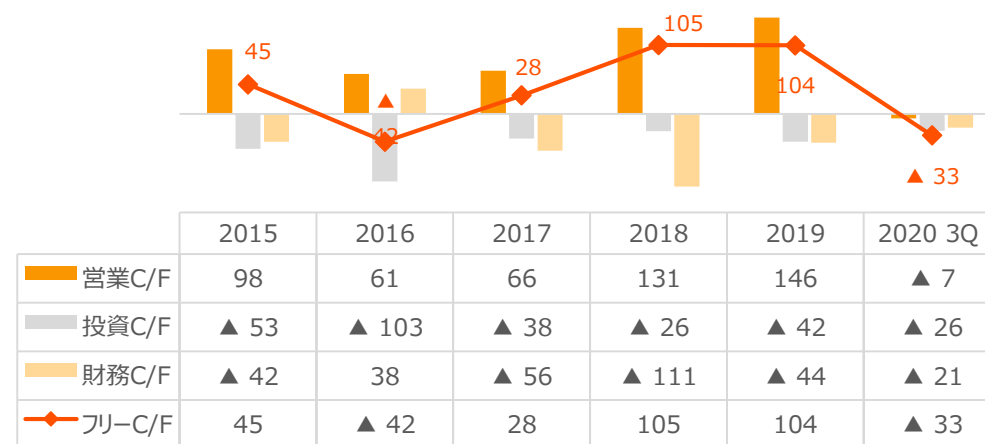
【BSの状況】

- 資産の部：売上債権・・・季節要因による増加
棚卸資産・・・原材料価格の上昇により、在庫金額の増加



【キャッシュフロー推移】

- 営業C/F：税金等調整前四半期純利益の減少、法人税等の支払増加、原料購買を中心とした運転資金の増加



資本政策

● 株式分割を実施することで、当社株式の流動性の向上と企業価値向上を図る

株式分割の実施	概要	<ul style="list-style-type: none">● 2021年3月31日（水）を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を1株につき2株の割合をもって分割する（分割比率 1 : 2）								
	目的	<ul style="list-style-type: none">➢ 分割により、当社株式の投資単位あたりの金額を引き下げ、当社株式の流動性を改善させる➢ 発行済株式の増加により、将来の資本政策の選択肢を広げる								
		<table border="1"><tr><td>株式分割前の発行済み株式総数</td><td>16,754,223株</td></tr><tr><td>分割により増加する株式数</td><td>16,754,223株</td></tr><tr><td>株式分割後の発行済み株式総数</td><td>33,508,446株</td></tr><tr><td>発行可能株式総数</td><td>54,000,000株</td></tr></table>	株式分割前の発行済み株式総数	16,754,223株	分割により増加する株式数	16,754,223株	株式分割後の発行済み株式総数	33,508,446株	発行可能株式総数	54,000,000株
株式分割前の発行済み株式総数	16,754,223株									
分割により増加する株式数	16,754,223株									
株式分割後の発行済み株式総数	33,508,446株									
発行可能株式総数	54,000,000株									

● 株主優待制度を変更し、投資家層の拡大と事業および商品の両面で当社ファン化を推進する

株主優待制度 の変更	概要	<ul style="list-style-type: none">➢ 保有株式数に応じて、株主優待の内容を変更する➢ 優待品に当社ECサイトクーポンを新設（好みの商品の選択可）し、株主の当社ファン化を推進する➢ 寄付プログラムを新設し、社会貢献の選択肢を提供する
	目的	<ul style="list-style-type: none">➢ 配当優待利回りを含む株主リターンを向上させることで、当社株式の魅力度を上げる

第五期中期経営計画基本方針

- 4つの成長戦略と3つの構造改革の柱に加え、経営基盤強化、意識改革の取組みを実施した

事業戦略

成長戦略

1. 油脂・育成領域での高付加価値品拡大
2. BtoB市場でのソリューション事業強化
～強みの掛け算～
3. アジアでの海外展開加速
～国内で磨いた価値を基に～
4. 汎用油脂製品の収益力強化



構造改革

1. バリューチェーンの効率化・高度化の
取り組み推進
2. 中長期視点での生産拠点最適化
3. 選択と集中、および効率化

経営基盤強化

企業ビジョン体系策定・浸透、組織風土改革

主な経営指標

- 新型コロナウイルスの影響等により、中計目標は達成困難だが、収益力の拡大に向け、引き続き取り組んでいく

(億円)	2015 年度 実績	2016 年度 実績	2017 年度 実績	2018 年度 実績	2019 年度 実績	2020 年度 修正予想	2020 年度 中計目標
売上高	1,873	1,802	1,834	1,868	1,782	1,600	2,150以上
売上総利益	294	327	302	348	364	—	—
営業利益	46	55	40	57	67	60	80以上
営業利益率	2.5%	3.0%	2.2%	3.0%	3.7%	3.8%	3.5%以上
EBITDA	88	105	89	106	117	110	—
当期純利益	30	33	41	47	52	48	—
ROA	1.9%	2.0%	2.6%	3.2%	3.5%	3.3%	4.0%
ROE	3.7%	4.0%	4.9%	5.6%	5.9%	5.3%	5.0%以上
EPS (円) ※	178.7	195.9	249.5	288.6	316.2	291.7	300円以上
D/Eレシオ	0.40	0.47	0.42	0.30	0.26	0.24	0.50
フリーC/F	44.8	△42.2	28.0	104.5	104.1	—	—
CCC (日) キャッシュコンバージョンサイクル	109.6日	117.3日	116.6日	112.3日	114.4日	—	—
一株当たり配当額(円) ※	90	90	90	90	100	100	—
配当性向	50.4%	45.9%	36.1%	31.2%	31.6%	34.3%	30%以上

※ 株式併合換算後

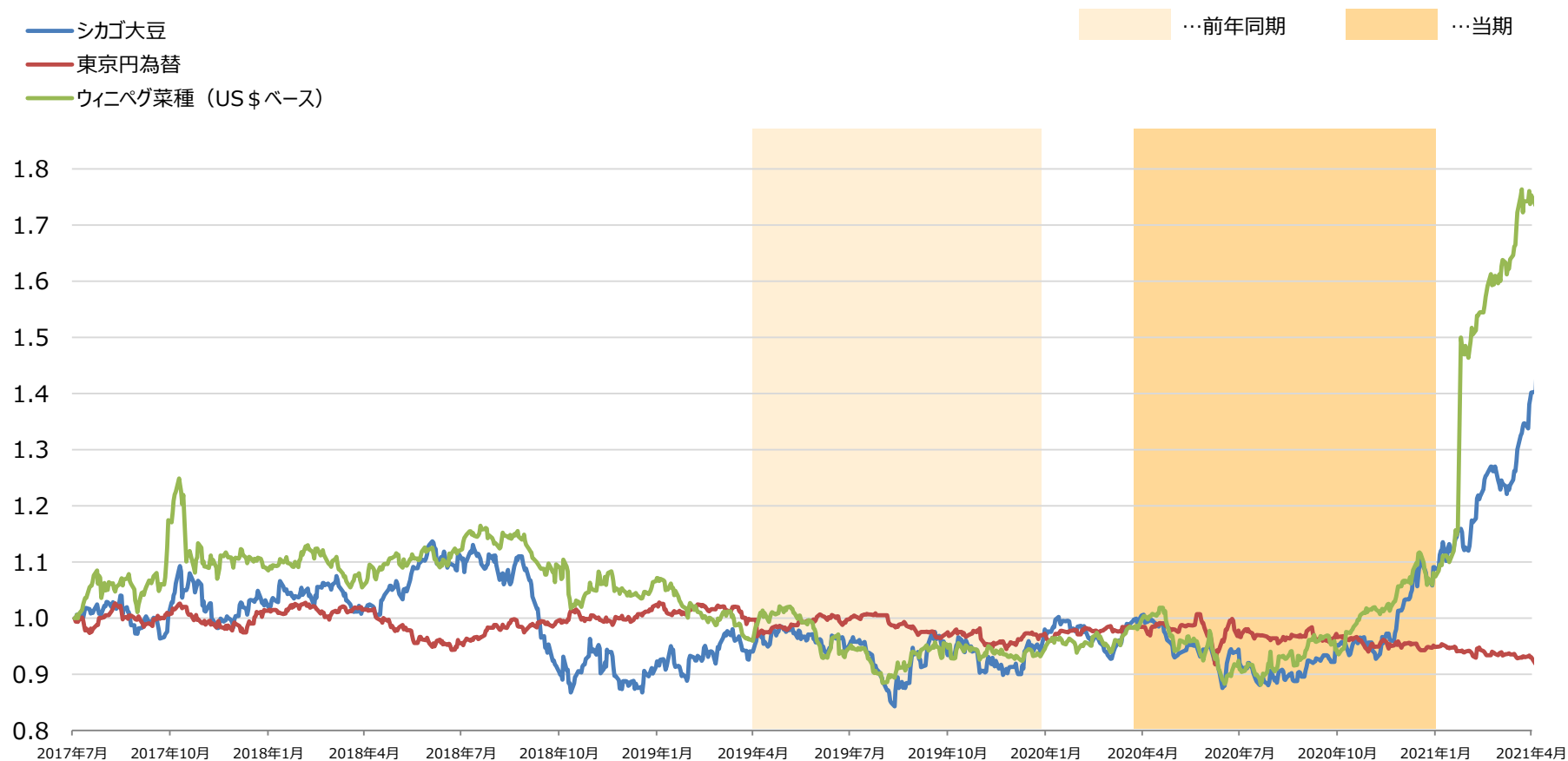


Agenda

- 1 2020年度3Q 決算概況
- 2 2020年度 通期見通し
- 3 2020年度 重点施策
- 4 財務戦略
- 5 参考資料

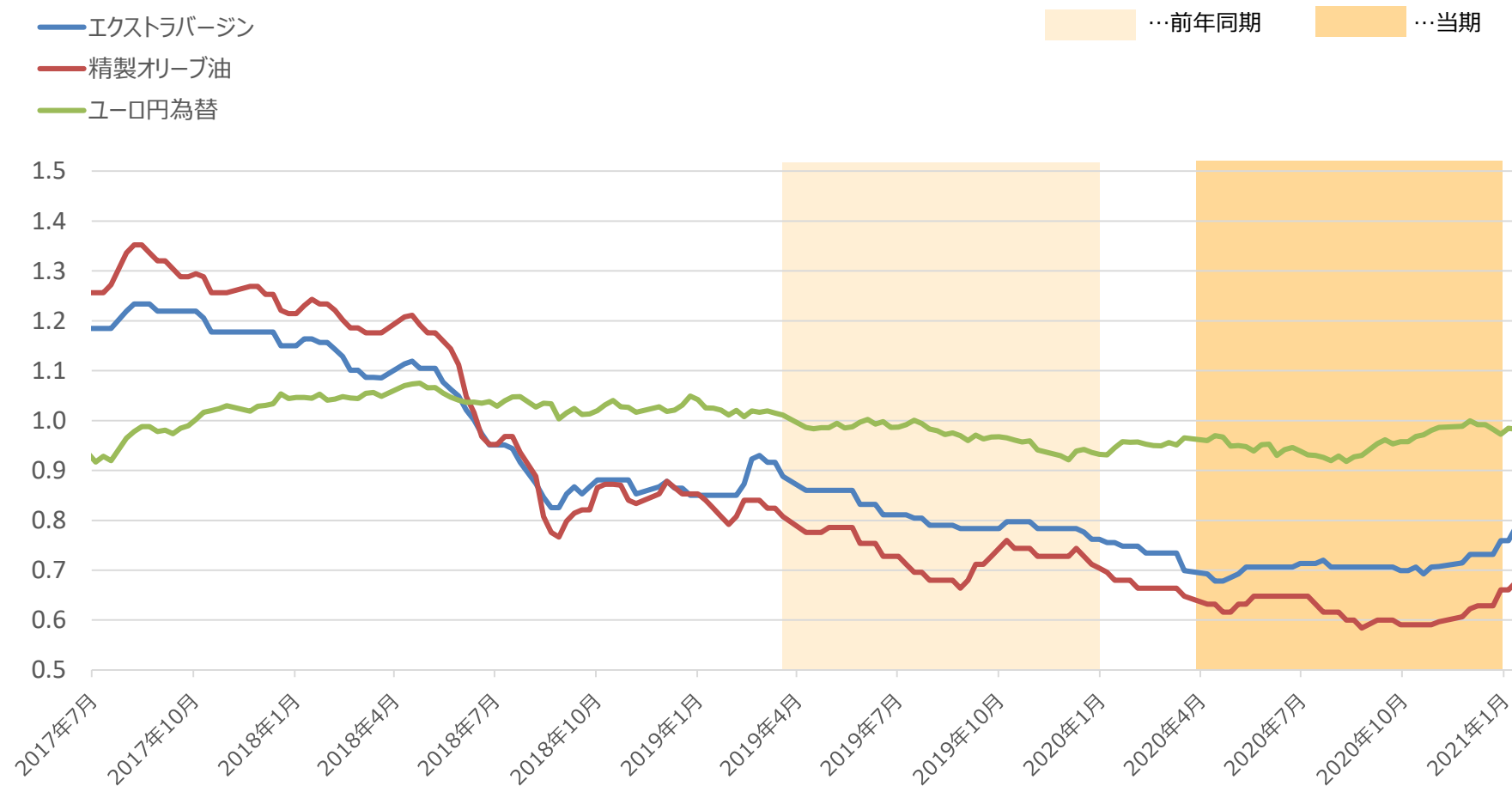
大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする)



オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする)



ミールバリューの動向

原料相場は大豆・菜種ともに上昇傾向だが、南米の干ばつなどからミールバリューが高めに推移



* シカゴ大豆定期 1 ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆 1 ブッシェルの価格の差



本資料取扱上の注意

- 本資料の金額は、四捨五入で表示しています
- 本資料記載の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです
実際の業績は、さまざまな要因により本資料の予想とは異なる結果となる可能性があります
ご承知おきください